

白楊ヶ丘札幌

平成25年7月5日
 白楊ヶ丘同窓会札幌支部
 〒060-0061
 札幌市中央区南1条西11丁目
 TS札幌ビル
 公認会計士・税理士 酒井純事務所内

総会にむけて



札幌支部 支部長

荒川 伸夫

(第六八期・昭和四十二年卒)

同窓会の会員の皆様におかれましては、お元気にお過ごしのことと思います。日頃同窓会活動には一方ならぬご支援を賜り感謝申し上げます。

この冬は大雪の日が続き、また寒さも例年になく厳しく、北海道に暮らす者にとつては大変な冬でした。しかし、我が校歌にあるように万象の蘇る春の光が本当にありがたく感じる今年の春でした。

さて、昨年度の活動を振り返ってみますと、総会・懇親会では「函中OBによるバンド演奏会」と銘打ち八十期・九十期台の同窓生によるバンド演奏が行われ、ヤング(?)・函中同窓生のエネルギーを發揮して頂きました。八十期から百期台の会員も多数参加していただき今後の会活動に大

いに活躍していただきたいと期待しております。十月及び二月には役員会を開催し多くの期の幹事さんにご出席いただき今後の会運営に向けてのご意見を頂きました。また、近年の傾向から会員情報の捕捉が困難になってきています。会員が多くおられるであろう職域での情報収集等を願っているところですので、対外的活動としまして、公立四

さて、昨年度の活動を振り返ってみますと、総会・懇親会では「函中OBによるバンド演奏会」と銘打ち八十期・九十期台の同窓生によるバンド演奏が行われ、ヤング(?)・函中同窓生のエネルギーを發揮して頂きました。八十期から百期台の会員も多数参加していただき今後の会活動に大

さて、先日、司馬遼太郎の

名著『菜の花の沖』を読んでもりましたら、その中で高田屋嘉兵衛が箱館に入ってくるシーンが描かれておりました。一七九五年のことです。我が函中の創立は一八九五年(明治二十八年)。嘉兵衛が初めて函館に入ってから奇しくも百

マでお話いただきます。函館の長い歴史の中での景観の推移もお話いただけるかと思ひます。函館再発見、同時に函中再発見をして参りましょう。本年度も会員の皆様方の行事へのご参加、ご支援をよろしくお願いいたします。

年目です。再来年の二〇二五年度には、函中創立百二十年を迎えます。また、同じ年に新幹線が函館(?)まで延伸になりま



函館中部高等学校 (写真提供：104期片山幹雄さん/P1.4.5.6.9.11)

前会長に感謝



白楊ヶ丘同窓会会長

石井直樹

(第六三期・昭和三十六年卒)

白楊ヶ丘同窓会札幌支部
定期総会、懇親会のご盛会
をお喜び申し上げます。

諸般の事情により出席で
きず大変申し訳ありません。
本日は菊地幹事長が出席
しておりますのでよろしく
お願いいたします。

皆様には、日頃同窓会の
運営など色々な活動に携
わっておりますことに心か
ら敬意を表します。

今年は、桜の開花も遅れ
ましたが、函館のこの冬は、
積雪がさほど多くないにも
かわらず寒い日が続き、
雪が解けず日常生活に大き
な支障をきたしたところで
あります。

さて、昨年十一月、前

会長が急逝されました。白
楊ヶ丘同窓会の会長として
六年の長きにわたり、会則
の改正や同窓会の法人化の
検討さらには同窓会館の効
率的な運営にご尽力されま
した。加えて、各支部の総
会や懇親会に出席をし同窓
の皆様と親しく話し合わ
れ、支部と本部の交流を一
層密にされるなど、同窓会
の発展に寄与されたところ
であります。

た際、当時函館市水道局
に勤務していた前会長が、
様々な知識や技術に駆使さ
れ、その課題を克服し、先
生はもとより児童、生徒に
大喜びされたことを思い出
します。

その時が、前会長との初
対面で、その後、直接同一
の職場になることはありま
せんでしたが、誰に対しても
威張ることなく、驕ること
もなく常に謙虚で、その誠
実な人柄と素晴らしい判断
力と決断力にはいつも敬服
をしておりました。

縁ありまして、この白
楊ヶ丘同窓会におきまして
も、役員の一員として、前
会長と一緒に仕事ができ
たことを、光栄に思い、誇り
に思います。

前会長のご逝去にあたり、
同窓会での精力的な活動に
感謝申し上げ、心からご冥
福をお祈りいたします。前
会長も気にかけておまし
た同窓会館の件ですが、昨

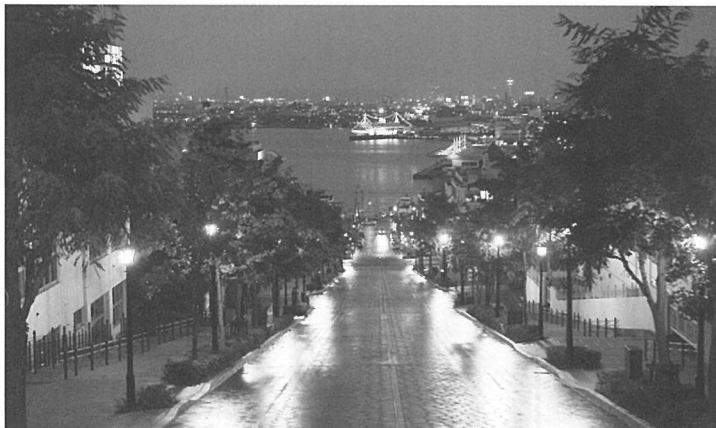
年の本部総会においても皆
様にそのあり方を検討した
いとこの報告をし、了解を
いただいたところです。

その後、今年に入ってから
役員はもとより、有識者
の方のご意見をお聴きして
いるなど本格的な話し合い
を始めております。一定の
方向性が出ましたら、役員
会、総会にその経過を報告
いたします。

二年後には、函館中部高
校は、創立百二十周
年という記念すべき
年を迎えます。現在、
学校において、その
周年行事のあり様
について検討中です。
当然ですが、同窓会
においても支援を
したいと思っております。

この平成二十七年
度には、地域経済の
活性化に大きな効果
が期待される展望の
北海道新幹線が、函
館にその姿を現しま

す。この新幹線が、残念な
がら人口減少など取り巻く
環境が厳しいといわれる当
地域の起爆剤となり、雇用
の場が増えるなど街づくり
に弾みがつくものと期待を
寄せております。終わりに
なりますが、白楊ヶ丘同窓
会札幌支部のますますのご
発展と荒川支部長はじめ会
員皆様のご健勝、ご多幸を
祈念申し上げ挨拶とさせて
いただきます。



八幡坂

東京支部だより



白楊ヶ丘同窓会東京支部長

安田 康次

(第六七期・昭和四十年卒)

白楊ヶ丘同窓会札幌支部の皆様方におかれましては、益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。昨年は大震災からの復興、周辺諸国との関係悪化、年末の総選挙による政権交代等、大きな変化がありました。今年に入り円安、株高と景気回復の兆しも見えてきた感があります。平成二十七年度には新幹線もやっと北海道の玄関口まで来る事が決まり、札幌までの開通も夢ではなくなった様な気がします。

さて、東京支部の活動状況ですが、昨年九月三十日に第三十六回親睦大会を八二期（昭和五十五年卒）の方が幹事期となり、新宿

十月十二日（土）に「グラウンドアーク半蔵門」で場所も変わり開催となります。まだはつきり決まっていはいませんが、「旧交を温め、楽しい時間を！」のテーマで検討中ですので、楽しみにしてください。東京支部では幹事期に日時・場所を期約やりやすい方法に任せており、毎回開催場所が変わる事をお許し下さい。札幌支部の方々と都合つく方は是非ご出席下さい。心よりお待ちしております。東京白楊だよりも発行いたしますので、是非、札幌からも同期会の報告などお寄せください。締め切りは七月十日となっております。

（原稿送付先：朝緑高太 E-Mail:morning-green@mildocane.jp）

昨年のご報告いたしました。が、東高、西高とのゴルフコンペ（函館巴会）です。が、今年も、七二期佐藤禎子さんの大活躍（個人優

勝）で団体でも昨年の雪辱をはたし、優勝する事が出来ました。又、同窓会のコンペ「ポプラ会」も十二月に開催され、中々お会いできない先輩の方々と交流も出来ました。二十五年度も新たな活動が始まりましたが、今年も大先輩から最近の卒業生まで幅広く集い支部の特色を一層生かし、活力にあふれた魅力ある同窓会を目指し、インターネットなどを活用していきたいと思っております。

早いもので、私の支部長も満六年となり、十月に役員改選の時期を迎えました。多くの課題を抱えている中、四月の評議員会において、続投せよとのお話があり、微力ながらも二期続けさせていたたく事になりました。他の役員も再任され、もうひと頑張りいたしますので、これから、ご指導、ご支援宜しくお願いいたします。大きな課題の二つに、年会費の減少がありますが、この問題は本部を含めてどの支部でも悩んでいる事と思います。各支部間の交流を大切に、良い知恵を出し合っていきたいと思えます。同窓会は皆様の会費で運営されている事を、もつともつとアピールして、しっかりした基盤を作り、発展させていきたいと思っております。同窓会は若い方の参加者が少しでも多くなる事が同窓会支部を盛り上げる最大の効果と思われ、又ご年配の方々にも楽しめる同窓会を目指し、伝統ある白楊ヶ丘同窓会を盛り上げていけたらと思っております。

最後になりますが、白楊ヶ丘同窓会札幌支部の益々の発展と荒川支部長はじめ、役員の皆様、札幌支部の皆様のご健勝を祈念申し上げます。七月の再会を楽しみに、ご挨拶とさせていただきます。

函中への想い



北海道函館中部高等学校長

千原 治

白楊ヶ丘同窓会札幌支部の皆様には日頃より本校の振興と教育活動へのご支援を賜り、心より御礼申し上げます。私は本年四月一日付けの人事異動で小林雄司前校長の後任として着任いたしました千原治と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

一 自己紹介

僭越ではございますが、先ずは自己紹介を申し上げます。皆様へのお近づきといたしたいと存じます。私は岡山県の片田舎に生まれ、地元高等学校を卒業後、北海道大学に入学しました。卒業

業と同時に北海道の高校教員に採用され、今日に至っております。勤務した学校は、教諭として更別農業高校、札幌真栄高校、網走南ヶ丘高校、教頭として霧多布高校、札幌啓成高校、小樽潮陵高校、校長として小清水高校、名寄高校を経て、本校函館中部高校に参りました。これまでの学校を振り返って見ますと、道東道北道央の学校ばかりで道南

は初めてであること、旧制中学校の流れを引き継ぐ学校が多いことなどが特徴的なところですが、このことは私にとってはこの上ない幸せと

感じております。と言いますのも、私は若い頃から旧制の中学校や高等学校の生徒の様子や教育のありように興味を持っておりまして、校歌や寮歌などが大好きで、自分の関わった学校ばかりでなく、全国の多くの学校のそれらを吟じていることが今でもしばしばあります。

二 校歌

本校に赴任して初めて校歌を聴いた時、その美しさに惹かれました。一番印象的だったのが曲の流れの流麗さです。特に、一番から

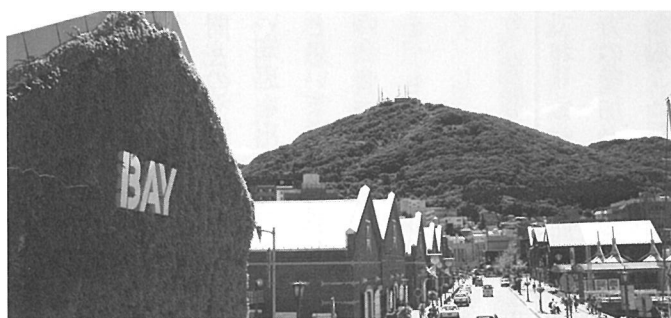
二番、二番から三番（…）へと移る時の変化の妙は、私の心に不思議な安寧と高揚を与えてくれました。この校歌は昭和二十三年度に新制高校の発足を機にそれまでの校歌・校章を改めることとなり、公募の結果圧倒的多数の支持を得て選ら

ばれた本校の藤原直樹先生の歌詞に、本校の酒井武雄先生に作曲を委嘱して完成したものだそうです。昭和二十四年三月五日の北海道立函館高等学校の第一回卒業式で正式に発表された時の関係者の皆様の心情には希望に満ちた感懐が起ったものと想像いたします。また、土井晩翠、岡野貞一という日本を代表する詩人と作曲家の手による函館中学校校歌は、現在は同窓会

歌として力強く歌い継がれているとのことですので、私も一日も早く歌えるようになりたいと思っております。

校歌の詞（この支部だよりの最後のページに歌詞が掲載されていると思いますので参考にしてください）を味わってみました。一番で「流転の相」、二番で「不滅の生命」が謳われ、三番で初めて人が登場します。梢を仰ぐのは生徒でしよ

う。彼（女）は遙か遠くの真理を究めるべく敢然と佇んでいます。四番で「流転」と「生命」がもう一度出てきます。ここで謳われている「生命」あるものとしての「学舎」は校舎でもあり、学校そのものです。そこに聞こえてくる新潮の響きを若人生徒に諭えています。若者は真理を求め、希望を求め、旅立つのです。そして、新潮は戦争を経た新生日本でもあるのです。



函館山

三 本校理解

私は本校に赴任して、一日も早く学校のことを知りたいと思いました。そのためにはいろいろな方法があるのですが、教頭時代に道立教育研究所の研修で学んだSWOT分析という組織マネジメントの手法を活用してみようと考えました。

それは、ある組織の内部環境を「強みStrength」と「弱みWeakness」、外部環境を「機会Opportunity」と「脅威Threat」という観点から評価するものです。そのうち、「強み」と「機会」はその組織に支援的に働く要素、「弱み」と「脅威」は阻害的に働く要素として分析することで、その組織の目標達成のための戦略を決めたり、意思決定に役立てたりするのに有効なツールとなるのです。

具体的には、教員との面談で聞き取りを行いました。

た。実に様々な答えが返ってきました。その一部を紹介します。このことで現在の函館中部高校全日制（定時制については申し訳ありませんが割愛いたします）の様子を少しでもお伝えできればと思います。

内部環境の「強み」は、「無限の可能性を持った生徒、部活動や行事に積極的な取り組み、経験豊富な教員、教員が意見を自由に表現出来る環境」等、「弱み」は「個人の力量に頼る教科指導、共通の価値観や統一した指針がないこと、生徒の力に頼っている部分があること、受身の学習態度の生徒が多いこと」等。外部環境の「機会」は、「保護者・PTA・同窓会・地域等の支援が大きいこと、保護者が教育熱心であること」等、「脅威」は「根強く残る風評（放置、放任など）、中学生の減少、本校への誤解」等です。

四 決意

私は今後これらのデータを生かしていかなければならないと思っています。良いところは伸ばし、悪いところは改めるというのが基本ですが、その際に必要な態度は優先順位を間違わないことです。明確な言葉で目標を設定することです。目標達成のための具体的な方策を持つことです。時間軸ということも大切にしなければなりません。



千代台電停

実は、学校では昔からこのようなことを行っていた。SWOT分析という言葉こそ使っていないのですが、問題が生じたときや、この学校を何とかしたいと思ったときに、教員が集まって解決策を模索したりしたものでした。その際にはSWOT分析のようなことを取り上げて議論しました。その根底には「こんな学校にしたい」とか「こんな生徒にしたい」という熱い思いがあるのです。この思いは教職にある者に共通した思いです。

学校文化や教員文化の中で、先輩の先生から教わりながらやってきたことを、今の時代にマッチしたやり方で模索していくことが私たちに求められています。幸いなことに、本校には経験豊富で力量のある教員が多数います。新しいことをどん

どん吸収していこうとする意欲的な若手教員もいます。私の役目はこれらの優秀な教員が持っている力を遺憾なく発揮できるようにすることです。

加えて、本校には素直で明るく、伸び伸びと育った生徒がいます。また、我が子のことはもちろんのこと、我が子の友達や函館中生全体のことを大切に思ってください。いらっしゃる、母校の後輩の活躍を温かく見守ってください。同窓会の方々がいらっしやいます。

こんなすばらしい学校に奉職できる喜びをかみ締め、北海道函館中部高等学校の校長として日々研鑽精進するとともに、先人から引き継がれた「白楊魂」「楊燈魂」の精神を生徒に伝えていくことをお誓い申し上げます。ご挨拶といたします。

回想

「いのちの輝きを」 感謝の心で

依田 美富士

(第八四期・昭和五十七年卒)

【寄せ書き】 高校を卒業する時に寄せ書きをした言葉は「生命（いのち）の輝きを」です。今をいきいきと輝いて生き、これからも自分らしく心の底から輝いて人の役に立つ生き方がしたいとの願いからそう書きました。今まで出会ったたくさんの方々や家族のおかげで、自分らしく輝いて生きてこられたと感謝の心でいっぱいです。

【母】 いつも明るく優しい笑顔で歌を歌いながら家事や自営の仕事をしていた大好きな母は、私が、一〇歳の時に病気で亡くなりまし

た。母が病気で入院するまでは、リンゴの皮むきもしたことがなかった私ですが、母が入院した頃から家事をするようになりまし。ご飯支度などがあったため、小学校、中学校では、部活動をしませんでした。

【使命】 進学するなら中部高校と考えていましたが、私が進学すると、函館に下宿することとなり、実家には、父と弟の二人になってしまいます。父のそばでご飯の支度や家事をしたいと思、経済的なことも考え、中学卒業後は、進学せずに働く予定でした。

そんな時、結婚し地方にいた姉から、「あなたには、あなたにしかできない使命があるはずですよ。お父さんのことを心配してそばにいたい気持ちにはわかるけれど、しっかりと勉強してやりたいことがいつでもできるようにしておいたほうがよいと思います。できる限り応援するから」と言われました。私は、父のことを考えたり、姉の思いを感じたりし、どうしてよいかわからなくなり、電話口でなきじゃくっていたことを覚えています。

【部活動】 中部高校に入学して間もなく、硬式テニス部に入学しました。初めての練習は、校舎周辺のランニングからだったように記憶しています。青い空、木々の新緑、柔らかな日差しとさわやかな空気が何にもかえがたい宝物のように思え、部活ができることの嬉

しさの一瞬一瞬をかみしめながらランニングしたことが昨日のように思い出されます。

玄関横の壁で早朝から壁打ちの練習をしたこと、テニスコートで先輩・同期・後輩と練習し真っ黒に日焼けしたこと、

全道大会に出場し大沼のイメージに宿泊したこと、合宿のエピソードなど懐かしい一コマ一コマがよみがえります。

【制服とクラスメート】
入学した時の中部高校は、みんな私服登校でした。通学用の私服を経済的に用意できず、姉が通学していた頃の中部高校の制服を着



旧函館区公会堂

て、一年間通学しました。ある土曜日のことです、一の七の教室に入り驚きました。女子がみんな制服を着ているではありませんか。私のことを考えて計画してくれたサプライズだったのです。今でもその風景を思い出しては、なんていい友達、なんていい人達、なんていいクラスメートなのだろうかと温かい気持ちで

いっぱいになるのです。

【下宿のおばさん】 杉並町に下宿をしました。下宿のおばさんに、随分お世話になりました。日曜日は、食事がないのですが、私が食べていないのでは、と心配してください、「食べないかい」とときどき声をかけてくれました。また、洋服を購入してくださいました。卒業後、訪ねて行ったところ、「立派になったね、成長したね。」と喜んで下さいました。その喜ぶおばさんの笑顔を今でも思い出します。



【手話】 何か社会の役に立ちたいと思っていた時に、

手話のボランティアがあることを知りました。時間帯は、夜だったように思います。手話で話ができるようになった時には、とても嬉しかったです。その縁でしようか、大学時代の家庭教師のアルバイトでは、ご両親がろうあ者のお子様二人の家庭教師をさせていたかったです。

函館中部高校は、いつものまにか新校舎となりました。数年前に現在の仕事の関係で高校訪問をする機会がありました。今、私が思い出す懐かしい旧校舎での心の風景は、授業を教えた下った先生方の表情や言葉と教室の黒板、クラス替えで離ればなれになった仲良しの友人と休み時間におしゃべりをした廊下、テニス部の冬場の練習でうさぎ跳びをした階段、なぜか距

離のあった文系と理系の教室の空間、旧体育館でのブルマーに着替えての床掃除、男子が体育をしていた体育館、プール授業の前のちよつと薄暗い更衣室での着替えなどです。高校のプール授業で、息づぎができないまま二十五メートルを泳いだ私が、大学で水泳部に所属、初歩からトレーニングをし、三ヶ月後に関東インカレに出場しました。

二年次に成績が伸び、学年で十番台になったこともあり、担任の福田先生から医学部にいかないと聞いていたことも、懐かしい思い出です。高三年生の春に父の病状が悪化、実家に戻り看病に専念しました。そして進学ではなく就職を考えました。テニス部の後輩には、「部活をやっているもここまで点数がとれる」と自信をもって部活を頑張ってほし

いと思ひ、私は、父の病状が落ち着いた晩秋の頃から短期集中で共通一次試験に臨みました。予想以上によい点がとれ、卒業時に後輩に喜んでもらえたことがとても嬉しかったです。兄と姉から、大学の入試願書締め切りの前日に、「仕送りはできないけど、これからの人生のために、行きたい大学に行ったほうがよいのでは」と後押しされ、出願しました。

【中部卒業後】 東京の八王子市にある大学に進学、仕送りがない中、アルバイトと奨学金で生活するも、念願だった海外へ三回も行くことができ、部活では、水泳部を経験後、モダンダンス部の部長を務めました。大学で全国から集った友と出会い、生涯にわたる多くの友情を築いたので。在学中に東京と北海道の教員採用試験に合格、大学卒業

後は、縁あって札幌で私立幼稚園の教諭となりました。未来の宝である園児一人ひとりの幸福を願い、「教師こそ最大の教育環境である」との師匠の言葉を胸に、園児・保護者と最高に楽しい充実した日々を過ごしました。

【父】 とても陽気で優しく愛情たっぷりな父は、八十四歳まで長生きしてくれました。「ありがとう」「よかったな」が口ぐせでした。最後の言葉は、「どんな人とも必ず心は通じ合えるよ」でした。

【最後に】 函館中部高校八四期の同期の皆様、お世話になった先生方、教職員・関係者の皆様、家族、今まで出会ってきたすべての方々に感謝の心をこめて、これからもさらに幸福でありますことを願って終わりにしたいと思います。

回想

僕にとっての

中部高校

畠山 貴行

(第九六期・平成六年卒)

このたび、若輩の自分に支部報の原稿依頼をいただき、大変恐縮しております。高校を卒業してちょうど

と名前を見つけたとき、「中部に合格した」という大きな喜びを強く思ったものです。

二十年。現在、同じ「高校」という教育現場で働いていることもあり、当時を振り返る貴重な機会をいただいたという思いから、筆をとってみました。

小学校の時から、「教師になりたい」と思っていました。さらに、根拠なく「高校は中部に入りたい」と信じていた自分が、平成三年三月、入学試験の合格発表を見るために、旧校舎の正面玄関前立っていました。遠くにある板に自分の番号

自分が在学した三年間は校舎改築とともに歩んだようなものでした。平成三年は現校舎の向かって右側（職員室部分）が完成し、一年生の四クラス（美術クラス）だけが入り、音楽クラスの僕は旧校舎。趣深いというべきか：当時は古く汚くてと思わなくもありませんでした。でもこの年齢にして石炭ストーブの暖かさに触れられたのは、よい思い出です。毎朝七時半過ぎには登校しており、赤

ジャ（公務補の加納さん）が毎朝石炭を運んで火をつけてくれたときに話をしたりしたものです。一年次は七組で担任は数学の北岡朋也先生。穏やかな顔と反面、我々に対するコメントは辛辣ながらも、生徒の誰からも憎まれず、むしろ僕らはそれに奮い立たされること

中部に入学して驚いたことの数々。まず、男女通しの出席番号。自分が三十一番というのにはびっくり。普通の学

した。ただ、その自由さゆえの責任、自分でしっかり物事を考えて行動することの大切さを教えてくれました。

校だと女子の番号。それから、六時間目が先生が不在で自習の場合、放課になるルール。当時はラッキーと

思いつつも、今この職業に就いて落ち着いて考えると、「!?」：生徒手帳にもきちんとして書いてある規則だったのはやはり驚き。

二年次に進級し、新校舎の三分の二が完成し、生徒全体が新校舎に移動した。旧体が特別教室（理科室）に模様替えをしたり、旧校舎が解体されていく様子を見ながら、さみしさもおぼえていました。今年も七組で、担任は世界史の高田徹

祭のクラス打ち上げがなぜか先生にばれてしまい、職員室で怒られたことは今でも忘れられない思い出です。その白楊祭では、前夜祭でファイヤーストームや五稜郭を練り歩く仮装パレードと、今は行われていない出し物も懐かしく思います。

さらに、おおよそ「校則」と呼ばれるようなものはないのです。その中でも、茶髪だったりパーマをかけたりという人はほとんどいませんでしたが、私服なのに学生服で来ていた人、卒業式にナース服で参列した男子。こんな自由な高校は、あまりないなと思いま

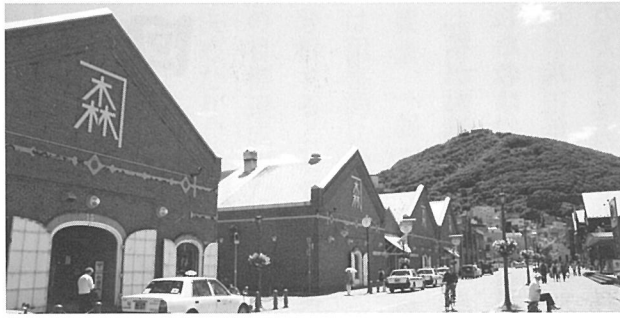
た。今年も七組で、担任は世界史の高田徹充先生に変わりました。一年の時は縁のない先生でしたが、不正や生徒の怠惰は頑として許さない真つ直ぐな気質で、勉強に対しても厳しい先生でした。旧校舎

さらに、九月に行われた宿泊研修では、曇天の中、ニセコ登山が強行（!?）され、予想通り雨が降り出し、ドロドロになりながら下山したこともありました。

卒業して驚いたことの数々。まず、男女通しの出席番号。自分が三十一番というのにはびっくり。普通の学

した。ただ、その自由さゆえの責任、自分でしっかり物事を考えて行動することの大切さを教えてくれました。





金森倉庫群

と変わって、建物のすべてが新しくきれいな反面、どこかたたくるしい感じになってしまった気もしました。教科担任の先生も国語の鎌田先生、英語の花輪先生、体育の出崎先生を除くと多くが新しい先生方になりました。その新しい先生方の中でも、一番印象深かったのは数学の平沼先生。北岡先生とは対照的な人柄ではありましたが、「なんだ、おまえらこんな問題も解けないのかー」という

名文句(?)で、つねに自分たちの学習意欲をかき立ててくれました。僕に数学のおもしろさを教えてくれ、「やる気」にさせてくれたのは、間違いなくこの二人の教師の存在が大でした。

二年七組というクラスは、過去の学校生活の中でぐんを抜いて居心地よく、男女の仲のよい、団結力のあるクラスでした。

何といっても、高校時代の最大行事はいつの世でも修学旅行。(当時は見学旅行という呼び名だったような…)

そんな仲のよいクラスでしたから、今思い出しても楽しい旅行でした。

今では珍しいですが、行きも帰りも寝台の車中泊。利用した行きの「日本海」も帰りの「はくつる」もすでに廃止になった寝台列車。やはり夜行は旅情たっぷりでした。行きの寝台で

は、男女三名ずつで朝まで語り明かしたり、一睡もせずに奈良公園を散策したり、薬師寺のお坊さんの話を聞いたり。京都の旅館はクラスの男子がほぼ全員入る大部屋で、これまた語り明かした夜でした。東京での自主研修では男同士で山下公園を歩き、夜には東京ドームで初ナイター観戦。巨人―大洋戦で、アンチ巨人の僕にはかなりのアウェー感たっぷり。帰りの寝台は、疲れていたのか油断してしまい、高田先生に起きていたのを見つかり、大目玉をくらってしまったのも、今となつてはいい思い出です。クラス解体の時に作った文集は、今でも大切にしています。

三年次には、体育館を含めた校舎がすべて完成。旧体は惜しくも解体され、新しい時代の到来を予感させました。また、教室の窓から見える函館山の姿に癒さ

れたこともありました。

担任は、学年主任の化学の徳谷正先生。徳谷先生は、一年の時からとにかく厳しく我々を叱咤激励し、どんなときも熱い指導で生徒にぶつかってきました。授業の集中度はマックスでみんな真剣そのもの。化学反応式を間違えてげんこつをはられたことも。(今の時代では通用しない指導かもしれませんが)でも何よりも先生の指導の熱心さゆえであることは、生徒の立場でもひしひしと伝わってきた。理系クラスながら、看護系志望者が多かったせいで、半数は女子。そのせいか、あの厳しい徳谷先生の場合、顔が日に日に柔らかくなっていったのは忘れられませ

ん。白楊祭の仮装パレードで先生が仮装したのにもびっくり。この年の夏には、北海道南西沖地震が起き、クラスの模擬店での利益を寄付したことも思い出のひ

とつです。

函中で得たことは、ここに書いたこと以外にも(書けないことも)たくさんあります。

高校の友人たちとは今でも年一回旅行して昔話に花を咲かせ、若かりしあの頃(?)を懐かしんでいます。

何よりも、今、高校の教壇に立つ自分にとって、函中から得た恩に報いるべく、当時の先生方が伝えたかったことは何か、それをまた今の若い高校生に伝えていく、一日でも早くそんな役割を果たせる教師になりたい。当時の函中にたくさんいた、厳しい頑固オヤジのようで、また生徒に対して熱い思いで接する、そんな教師になりたい。この原稿を書きながら、気持ちを新たにしています。

これからの函中の未来も明るく洋々たれ!



函館ハリストス正教会

晴らしい方ばかりだった。特に思い出に残っているのは、一年生の時の担任で、数学担当の柴田隆一先生。愛称は「しばQ」。明るく元気で声が大きく普段は楽しい方だが、怒ると怖かった。教え方が上手との評判だったが、この先生をもつてしても数学が苦手な私は

どうにもならなかった。もう一人は、三年生の時の担任で現代文担当の田中勉先生。愛称は「ペンさん」。確か新聞記者から教師になったという経歴。授業もユニークで、ほとんど教科書に頼らず、生徒との対話で進めていく。黒板に殴りつけるように書く板書

は、まさに芸術作品であった。国語が好きだった私は、ペンさんの授業をいつも楽しみにしていた。今回、原稿の依頼があり、本当に久しぶりに卒業アルバムを開いて見た。忘れていた記

憶が次から次に蘇ってきて実に懐かしかった。

さて、折角いただいた機会である。ここからは、自己紹介と近況報告を兼ねて高校卒業後の話をさせていただきます。

一年浪人の後に中央大学法学部法律学科に進学。卒業後は、北海道拓殖銀行を経て札幌市役所に入った。いろいろな部署を経験したが、一番の出来事は、二〇〇三（平成十五）年に上田市長の初代秘書に就任したことだ。秘書は随行秘書とかカバン持ちとかいわれ、常に市長と行動を共にするのが仕事だった。上田市長は、実に四十四年ぶりの民間出身者の市長であった。そのため、マスコミや各種団体から引っぱりだこで多忙を極めていた。二年間の随行秘書の後、内勤となり、市長の日程調整業務を三年間行った。その後、中央区役所に異動したが、

一年で秘書課長として戻り三年間お仕えした。通算すると秘書課に八年もいたが、この間、本当に多くの貴重な体験をさせてもらった。

例えば、札幌市では、毎年開催している宮様国際スキー大会などを通じ皇室とも関わりが多い。私も宮家の随従業務に何度か携わったが、常陸宮殿下・同妃殿下や秋篠宮殿下から直接ねぎらいのお言葉をいただいたときには感激した。

現在は、西区役所市民部地域振興課という部署にいる。ここは、町内会などの住民組織が行うまちづくり活動を支援するところである。その他、青少年育成委員、統計調査委員、スポーツ推進委員や日赤、自衛隊協力会、文化団体なども関係が深い。仕事の一例を紹介する。去る五月十一日には、西区内を流れる琴似発寒川を約二千名の参加者

と共に清掃を行った。また、その翌週には、きれいなになった琴似発寒川へヤマベの稚魚三万匹を放流した。こちらも参加者二千名を超え家族、地域の方の交流の場となった。これらは二十四年も続いている西区の恒例行事だ。区役所という現場に来て感じたが、私たちの地域が住み良い環境になっているのは、地域活動を一生懸命行っている方々のお陰であるということ。地域の皆さんには、本当に頭が下がる。

私は、現在四十六歳で現役ど真ん中というところだろう。今の自分があるのは、函館中部高校で青春を過ごしたからだと言っても過言ではない。本当に中部に行って良かったと心の底から思っている。これからも、白楊の誇りを胸に秘めて頑張っていきたい。

おうということか。どちらかの名前が採用されると、採用されない方の言い分はどうなるのか。お互いの市に配慮し「函館北斗駅」ではどうかの名(迷?)案も出てきている。はてさてどんな新駅名になるのか楽しみだ。

②魅力ある街づくりが今後の重要課題である。

新駅名は時期が来ると決定するが、地元が新幹線を活用した魅力ある地域作りをしなければ、札幌延伸になると(仮)新函館駅は単なる通過駅になりお客さんが下車しない駅になってしまう。函館・北斗連携(駅名を巡り綱引きしている場合ではない)しながら魅力ある地域にして、お客さん(仮)新函館駅で降りていただくような作戦を立てなければならぬ。これは函館・北斗だけの問題ではなく、渡島・檜山を含めた広域の問題といえるだろう。

ア、北斗駅前再開発(写真参照:左手奥が現渡島大野駅)

新駅舎は現渡島大野駅にできる。その周辺は今、区画整理・整備事業真只中。田んぼの中に忽然と新駅舎が登場する。その新駅舎の立柱安全祈願式典が六月十五日に予定されている。しかし、まだ区画整理だけでは、周辺がどのようなのかは想像できない。



イ、函館駅前再開発

北斗駅は面白い話題だが、函館駅前再開発こちらは深刻。北海道新幹線が開業しても新駅で乗り換え、お客さんはそのまま汽車で札幌に向かうのではないか。待

機している観光バスで札幌直行ではないか。本日に函館まで来てくださるだろうか。心配の種は尽きない。

函館朝市の充実。以前、和光デパートが入居していたビルを取り壊し(今年十一月予定)、住居・商業施設混合の高層ビル構想。駅前通アーケード撤去。グリーンプラザ整備等々。

ウ、函館市民の機運盛り上がり

北海道新幹線開業を見据えた広域観光(渡島、檜山、後志、胆振)を進めるために、各自治体を中心となつて機運が高まるようにと事業費を付ける。また民間でも、例えば日銀函館支店開業百二十周年式典(六月)で各界(経済、金融、

行政、観光)の代表が函館の成長・発展について話し合うなど、地域は必死。新幹線に関する報道も盛んになる。

二〇十六年三月の北海道新幹線開業に向けて、函館はがんばっている。故郷発展のために札幌支部の皆さんにも応援してもらいたいと思っている。

平成24年度収支計算書

白楊ヶ丘同窓会札幌支部

自 平成24年4月1日
至 平成25年3月31日

収入の部		
科目	金額	摘要
前年度繰越金	1,882,118	
年会費	372,000	@2,000円/185名 現金払@2,000円/1名
終身会費	150,000	@10,000円/5名 @15,000円/4名 @20,000円/2名
総会懇親会費	293,000	@5,000円/49名 @3,000円/9名 @1,000円/2名 現金払 @3,000円/1名 @6,000円/1名 @10,000円/1名
広告掲載料		
雑収入	60,000	総会祝儀・寄付金等
預金利息	235	郵便貯金
収入合計	875,235	
収入の部合計	2,757,353	

支出の部		
科目	金額	摘要
総会懇親会費	288,000	会場関係費
講演会費	70,000	機材レンタル代
印刷費	216,402	白楊ヶ丘札幌、総会通知、年会費払込票等印刷費
会員名簿作成費		
通信費	175,437	総会通知、支部報、発送費等
旅費交通費	55,000	本部・他支部総会参加旅費、その他交通費
会議費	50,500	役員・幹事会費
事務費	18,403	文具・消耗品費
振替手数料	23,080	郵便振替手数料
雑費	44,520	本部・他支部祝儀・その他雑支出
支出合計	941,342	
次期繰越金	1,816,011	内訳財産目録のとおり
支出の部合計	2,757,353	

財産目録		
種類	金額	摘要
現金	30,322	
振替口座	786,920	
郵便貯金	998,769	
合計	1,816,011	

講演会 「函館の街並み景観が問いかけるもの」

講師 山内 一男 氏 (第69期)



●ご略歴

1967年3月 函館中部高等学校卒業 (第69期)
 1971年3月 千葉工業大学建築学科卒業・東京工業大学青木研究所退室
 1987年 日本建築家協会会員
 1988年 函館にて、(株)建築企画山内事務所設立
 1991年 (財)日本住宅リフォームセンター「加茂邸」優秀賞受賞
 1995年 函館市都市景観審議会委員
 1999年 「函館市弥生団地」さわやか公住賞受賞
 2003年 (社)北海道建築士会副会長 函館支部長
 2005年 NPO法人「はこだて街なかプロジェクト」理事長
 2012年 写真アルバム 函館市の昭和 いき出版 共同執筆

函館中部高等学校校歌

作詞 函館中部高等学校教諭

藤原直樹

作曲 函館中部高等学校教諭

酒井武雄

一、火柱のはためく峰も

年古りて緑の臥牛

宇賀の浦風の砂山

波よせてくずれ流るる

見よや物なべてうつろふ

窮みなし流転の相

二、北の国雪深けれど

その底には草は芽ぐめり

野山荒れ鳥潜めども

やがて来ん春の光に

万象の蘇る見よ

ここにあり不滅の生命

三、白楊のさやめく丘辺

秋深き梢揚げば

冴え渡る銀河の彼方

幽けくぞ星雲燃ゆる

胸に満つ久遠の思ひ

遙かなり真理の彼岸

四、限りなき流転の中に

生命あり不滅の学び舎

聞けや今窓の外遠く

新潮の入りくるひびき

よしさらば若人われら

踏まんなかな希望の門途

函館中学校校歌

(同窓会歌)

作詞 第二高等学校教授

土井晩翠

作曲 東京音楽学校教授

岡野貞一

一、玄冥の北の一道

関門の岸に臨みて

青春の薫にしろく

基おく育英の場

二、集い寄る千余の子弟

人生の花の綻び

身を鍛へ心を練りて

向上の一路を辿る

三、宇賀の浦万頃の水

駒が岳千仞の山

微を積みて高きに至り

滴より空をもひたす

四、形ある無言の教

仰げ我が紅顔の子等

業成らば双の方の上

興国の運も負へかし

五、母校の名子弟の誉

花と香と常に伴ふ

任重く道の遠きを

嗚呼健児勉めざらめや

編集後記

長谷川雄助先輩のご推薦を
 いただき、本年度より支部報
 編集をしております。依頼か
 ら編集まで、まだまだ一人で
 は何もできず、先輩方のご指
 導をいただきながら、何とか
 完成させることができました。
 一昨年度より同窓会札幌支部
 に顔を出しまして、こうして
 同窓会のお手伝いをしており
 ますと、自分が同窓であるこ
 とを実感するとともに、母校
 を懐かしく思います。我が
 一〇四期は、年に数度は顔を
 合わせております。また、所
 帯をもつ年頃ともなりました
 て、同期の結婚式に参加する
 ことも多くなってきました。
 次に再会するときまでに、一
 回も二回も成長していよ
 うと決意する瞬間です。微力
 ながら、今後とも同窓会札幌
 支部の活性化に努めて参りた
 いと思っておりますので、どうぞよ
 ろしくお願いいたします。

(一〇四期・中村大輔)